

カキ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	灰色かび病	落葉病	黒星病	炭疽病	うどんこ病	黒点病	すす点病	(枯達防止)	ゆめ進
イオウFL	M2		*e	-					◎				
クムラス顆水	M2		-	-					◎				
石灰硫黄合剤	M2		-	-			◎		◎				
トップジンM水㊟	1		1	6		◎		◎	◎		◎		
トップジンMペースト㊟	1		*c	3									◎
ベンレート水㊟	1		1	6		◎		◎	◎		◎		
アフェットFL	7		1	3		◎							
カナメFL	7	劇	1	3	◎	◎			◎				
ケンジャFL	7		14	3	◎	◎			◎				
パレード15FL	7		1	2		◎			◎				
フルーツセイバーFL	7		1	3	◎	◎		◎	◎		◎		
アミスター10FL	11		7	3		◎		◎	◎	◎	◎		
スクレアFL	11		1	3	◎	◎		◎	◎				
ストロビーDF	11		14	3	◎	◎		◎	◎				
ファンタジスタ顆水	11		7	3	◎	◎		◎	◎				
フrintFL25	11		1	3		◎		◎	◎				
フロンサイドSC	29		45	1	◎	◎		◎					
フルビカFL	9		14	5	◎				◎				
アンビルFL	3		7	3					◎				
インダーFL	3		7	2		◎		◎	◎				
オンリーワンFL	3		1	3	◎	◎		◎	◎				
サブロール乳	3		14	4					◎				
スコア顆水	3		1	3		◎		◎	◎				
トリフミン水	3		1	3					◎	◎			
ルビゲン水	3		21	3					◎				
オキシンドー水80	M1		14	5		◎		◎	◎				
キノンドーFL	M1		14	5		◎		◎	◎				

カ

キ

## カキ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	灰色かび病	落葉病	黒星病	炭疽病	うどんこ病	黒点病	すす点病	(ゆめ) (枯込防進)
ドキリンFL	M1		14	5		◎		◎	◎			
バッチレート塗	M1		*d	3								◎
ジマンダイセン水	M3		45	2		◎	◎	◎		◎		
チオノックFL	M3		30	2		◎		◎	◎			
トレノックスFL	M3		30	2		◎		◎	◎			
ペンコゼブ水	M3		45	2		◎		◎	◎			
オーソサイド水80	M4		7	5		◎		◎			◎	
パスポート顆水	M5		30	3		◎		◎	◎			
ベルコート水	M7		14	3	◎	◎	◎	◎	◎		◎	
デランFL	M9	劇	90	5		◎		◎	◎			
ストライド顆水	M11		14	4		◎		◎			◎	
ゲッター水㊟	1・10		7	3	◎	◎		◎				
ニマイバー水㊟	1・10		1	3	◎	◎		◎				
ルミライト水	1・3		1	3		◎			◎			
ホームイコート水㊟	1・M3		*a	1				◎	◎			
ラビライト水㊟	1・M3		45	2		◎		◎	◎			
ナリアWDG	7・11		1	2	◎	◎		◎	◎			
ナティーボFL	11・3		1	3	◎	◎		◎	◎			
テーク水	3・M3		45	2		◎		◎	◎			
ブローダ水	3・M3		45	2		◎		◎	◎			
ピオネクトFL	M1・-		14	5		◎		◎	◎		◎	
ダイパワー水	M4・M7		14	3					◎			

㊟：チオファネートメチル含有剤 ◎：ベノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での◎は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く）。\*a：休眠期 \*c：剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後 \*d：剪定時及び病患部削り取り直後 \*e：発病前～発病初期

力

キ

カキ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒毒性	使用時期(回数)	使用回数	アザミウマ	カキクダアザミウマ	チャノキイロアザミウマ	カイノヒメヨコバ	カイガラムシ	カメムシ	カキノヘタムシ	カキノホソ	フタモンダラメイガ	ハマキムシ	イラガ	スカシバ	ヒメコスカシバ	ケムシ	アメリカシロヒトリ	ミノガ	ハスモンヨトウ	コガネムシ	カミキリムシ	ハダニ
バシレックス水	11A		*b	-							◎				◎									
ハーベストオイル	UNM		*a	-				◎																
オリオン水40	1A	劇	21	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎				◎	◎					
エルサン水	1B		30	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎														
オルトラン水	1B		45	2	◎	◎		フ	◎															
ガットサイドS乳	1B		*d	2									カ				◎							
ジェイエース溶	1B		45	2		◎	◎				◎													
スミチオン乳*	1B		30	3				オ	◎	◎	◎		◎	◎					◎	若				
ダイアジノン水34	1B	劇	45	4				お					◎						◎					
マラソン乳	1B		30	4				◎					◎	◎										
キラップFL	2B		7	2	◎	◎	◎		◎															
アークリンク水	3A		30	3		◎	◎		◎	◎			◎								チ			
アーデントFL	3A		1	3	◎	◎	◎		◎	◎														◎
アグロスリン水	3A	劇	1	3	◎	◎	◎		◎	◎														
アディオソ乳	3A		7	5		◎	◎		◎	◎								◎	◎					
スカウトFL	3A	劇	7	5	◎	◎	◎		◎	◎														
テルスター水	3A		14	2		◎	◎	◎	◎															◎
テルスターFL	3A	劇	3	2		◎			◎	◎														
トレボン水	3A		30	3		◎	◎		◎	◎			◎									チ		
バイスロイドEW	3A	劇	14	3		◎	◎			◎														
マブリックEW	3A	劇	30	2		◎			◎	◎			◎								◎			
マブリック水20	3A	劇	30	2		◎			◎	◎			◎								◎			
ロディー水	3A	劇	7	3		◎	◎		◎	◎			◎											
ロビンフッドエアゾル	3A		1	5													◎	◎				◎		
アクタラ顆溶	4A		3	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎														
アドマイヤー顆水	4A	劇	*f	3	◎	◎	◎	◎	◎															
アルバリン顆溶	4A		1	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎														
スタークル顆溶			*e	1				◎																
ベストガード溶	4A		7	3		◎																		
ダントツ溶	4A		7	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎										
モスピラン顆溶	4A	劇	1	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎														
トランスフォームFL	4C		1	3				◎																
ディアナWDG	5		1	2	◎	◎	◎				◎		◎											
デリゲートWDG	5		1	2	◎						◎		◎											

カ  
キ

カキ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒害性	使用時期(回数)	使用回数	アザミウマ	カキクダアザミウマ	チャノキイロアザミウマ	カイノヒメヨコバエ	カメムシ	カキノヘタムシ	カキホソ	フタモンダラムメイガ	ハマキムシ	イラガ	スカシバ	ヒメコスカシバ	ケムシ	アメリカシロヒトリ	ミノガ	ハスモンヨトウ	コガネムシ	カミキリムシ	カキサビダニ	ハダニ
コルト顆水	9B		1	3		◎	◎																	
ニッソラン水	10A		7	2																				◎
コテツFL	13	劇	14	2	◎	○	○			◎			◎										◎	ナ
パダンSG溶	14	劇	45	4		◎				◎	◎	◎		イ										
アタブロンSC	15		14	3		◎				◎		◎												
カスケード乳	15		14	2		◎				◎		◎				◎	○							
ノーモルト乳	15		30	3						◎			◎											
アブロード水	16		*g	2				幼																
マイトコーネFL	20D		7	1																				◎
サンマイト水	21A	劇	14	2		◎	◎																◎	◎
ダニトロンFL	21A		7	1																				◎
ピラニカ水	21A	劇	21	1																				◎◎
モベントFL	23		7	3	◎	○	○	◎																
スターマイトFL	25A		1	1																				◎
ダニサラバFL	25A		1	2																				◎
ダニコングFL	25B		1	1																				◎
サムコルFL10	28		1	3						◎		◎◎	ヒ			◎	○							
テッパン液	28		1	2	◎	○	○	◎	◎			◎◎	◎◎	◎	◎	◎				◎				
フェニックスFL	28		7	2						◎		◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	○								
		*h	1								◎			◎	○									
ヨーバルFL	28		1	2	◎				◎		◎			◎										◎
ウララDF	29		14	2		◎																		
キックオフ顆水	4A・28		1	3	◎	○	○	コ	◎	◎							◎	○						

\*商品によって適用害虫が異なる。 \*a:発芽前 \*b:発生初期(但し収穫前日まで)  
 \*c:成虫発生初期～終期 \*d:産卵期～幼虫食入初期(但し収穫45日前まで)  
 \*e:発芽前～発芽期 \*f:収穫7日前まで(但し露地栽培については発芽期から開花期を除く)  
 \*g:開花期まで(但し収穫45日前まで) \*h:開花期まで

イ:イラガ オ:オオワタコナカイガラムシ及びフジコナカイガラムシ カ:カキノキマダラムメイガ  
 コ:コナカイガラムシ類 チ:チャミノガ ナ:ナミハダニ及びカンザワハダニ  
 ヒ:ヒロヘリアオイラガ フ:フジコナカイガラムシ お:オオワタコナカイガラムシ若齢幼虫  
 幼:幼虫 若:若齢幼虫

カ  
キ

## カキ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
落葉病	休眠期	・落葉を集めて処分する。	落葉病には、角斑落葉病と円星落葉病がある。 円星落葉病の発生が多いので6月上旬～7月上旬の散布が重要である。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。 ◎を使用した場合には同じ作での㊦は使用しないこと、その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く）。
	6月上旬～7月上旬・9月上旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 フロンサイドSC (FL) 2000倍 ベンレート水和剤●◎ 2000～3000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤● 3000～4000倍 ラビライト水和剤●㊦ 500～800倍	
黒星病		1. 窒素肥料は元肥を主体にし、過用しない。 2. 枝がこみあわないよう間伐する。 3. 病枝は切り取り、処分する。 4. 園内は排水を良好にする。	春と秋に雨が続くと多発しやすい。 次郎、禅寺丸は発生しやすい。
	発芽前 (3月下旬)	・次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤 100倍	
	生育期	・次の薬剤を散布する。 ベルクート水和剤 1000～1500倍	
炭疽病		1. 窒素肥料は元肥を主体にし、過用しない。 2. 枝がこみあわないよう間伐する。 3. 病枝は切り取り、処分する。 4. 園内は排水を良好にする。 5. 剪定枝や落ち葉は翌年の伝染源となるので園内に放置しない。	春と秋に雨が続くと多発しやすい。 富有は発生しやすい。 ●DMI剤は連用しない。
	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 キノンドーフロアブル 800～1000倍 スコア顆粒水和剤● 3000倍 ベルクート水和剤 1000～1500倍	
うどんこ病	発芽前	1. 発病園では早めに落葉を集めて処分する。 2. 次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤 100倍	●DMI剤は連用しない。
	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター10フロアブル 1000倍 ベルクート水和剤 1000～1500倍 トリフミン水和剤● 2000～3000倍	

カ

キ

## カキ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
カキクダ アザミウマ	展葉期および6月頃	<p>1. 光反射シルバーマルチなどの設置により成虫の飛来を回避する。</p> <p>2. 次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アクタラ顆粒水溶剤# 2000倍</p> <p>アディオン乳剤 2000倍</p> <p>オリオン水和剤40# 1000倍</p> <p>コテツフロアブル# 2000～4000倍</p>	<p>加害葉は捲葉となるので発生に注意する。幼虫や新成虫が幼果を加害する。</p> <p>#アザミウマ類での登録</p>
チャノキ イロアザミウマ	冬期 6月上旬～7月上旬	<p>・粗皮を削り、集めて焼却など処分し成虫を防除する。</p> <p>・次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アクタラ顆粒水溶剤# 2000倍</p> <p>アディオン乳剤 2000～3000倍</p> <p>アドマイヤー顆粒水和剤#a 5000～10000倍</p> <p>ウララDF 2000倍</p> <p>コテツフロアブル# 2000～4000倍</p> <p>パダンSG水溶剤 1500倍</p> <p>ロディー水和剤 1500倍</p>	<p>#アザミウマ類での登録</p> <p>*a露地栽培については発芽期から開花期を除く</p>
フジコナ カイガラムシ	休眠期 6月下旬(幼虫ふ化期)・7～8月・9月	<p>・粗皮削りやバンド誘殺を行う。</p> <p>・次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>オリオン水和剤40# 1000倍</p> <p>スミチオン乳剤 1000倍</p> <p>モスピラン顆粒水溶剤# 2000～4000倍</p>	<p>年3回発生</p> <p>卵のう形成後は幼虫のふ化を待って薬剤散布をする。</p> <p>#カイガラムシ類での登録</p>
ツノロウ ムシ	剪定時 7月上旬～8月上旬	<p>・剪定時に除去する。</p> <p>・幼虫時に、次の薬剤を散布する。</p> <p>トランスフォームフロアブル# 1000～2000倍</p> <p>コルト顆粒水和剤# 2000～3000倍</p> <p>モベントフロアブル# 2000倍</p>	<p>年1回発生</p> <p>#カイガラムシ類での登録</p>

カ

キ

